

発行元
東京新聞
南千住東口専売所
TEL5850-3699
発行責任者
鬼塚 佳代子
TEL090-2657-0300

すまいるたうん



第188号
平成23年

8月23日

シベリア抑留 四年 現代 に過去を伝える中村実さん

「1週間で仕度して行っただけです」

旋盤工として働いていた中村実さんに召集令状が来たのは敗戦の色濃い昭和19年7月のことです。所属は東部十部隊

(歩兵部隊)。麻布に集合した3日間、

家族親戚縁者と最後の面会をしました。

その後は、諜報機関の目がありましたから外部との接触は一切できず、手紙を出すこともどこに向かうのかも漏らすことはできませんでした。

一装用の真新しい軍服を身につけ、意気揚々と品川駅から門司駅に向かう客車に乗りました。始めは皆さちんと座席に座っていましたが、暑さのために床に寝ていました。

「祖国よ、さらば」

門司駅から韓国釜山(プサン)港に船向かい、旧満州(中国東北部)へ。敵は、ロシア。

8月には満州鉄道の二段ベットの貨物車に乗って奉天に行きました。ここで、軍事教練(銃を持って戦う訓練)を3ヶ月受けて、警備隊となり第一期の検閲を受けました。

訓練の成績によって一般兵は二等兵、一等兵、兵長、准尉(人事係)に分けられました。上等兵で給料は13円でした。

本格的な戦闘に行く前に終戦となり、部隊ごとロシアの捕虜となりました。シベリア抑留、主に旧満州から60万人が強制連行され、1割以上が死亡しています。中村さんはイルクーツク州に強制連行され抑留さ

れ、そこで待ち受けていたものは炭鉱堀と掘り出した石炭の列車への積み込みの過酷な労働、寒さと不自由な食糧状況でした。栄養失調、発疹チフスなどの病気でイルクーツク州では⁵³⁵⁵人が亡くなっており、音楽をたしなんでいた中村さんは文化委員としてバイオリン、アコーディオンを弾いて軍歌を演奏していました。

「祖国の地を踏みたい」

「ナカムラミノル」と名前を呼ばれた時は、バイオリンを投げ出し、引き揚げ船(貨物船)の船底にもぐりこみました。昭和24年7月、岸壁の母で有名な京都府舞鶴港に着き、検疫を受けて晴れて日本に戻って来ることができました。

青春の真つ只中の5年間をつぶされ戦後4年経って祖国の地を踏めました。

「上野に着いてびっくりしました」

戦後の復興は目覚しく、帰還した中村さんには浦島太郎のような感慨を受けたそうで

す。◇昭和18年・学徒出陣・東京上野動物園で空襲時に逃げ出して危害を加える恐れがあるという理由で25頭を毒殺。勘太郎月夜唄・若鷺の歌が流行。

◇昭和19年・学童疎開開始。ラバウル海軍航空隊・少年兵を送る歌が流行・ハチ公像回収(金属回収で錆つぶされた)・両国国技館が軍に接収、風船爆弾工場になる。

◇昭和20年・東京大空襲・名古屋、大阪神戸大空襲・広島長崎原爆投下・日本無条件降伏、降伏文書調印・ダンチョネ節・同期の桜流行◇昭和21年 天皇の人間宣言

リンゴの唄・悲しき竹笛流行

◇昭和22年・日本国憲法施行、啼くな小鳩よ・とんがり帽子流行

◇昭和23年・古橋広之進が「世界のトビウオ」として世界新記録連発し、湯川秀樹氏が日本人初のノーベル賞受賞。青い山脈・悲しき口笛・銀座カンカン娘が流行。

中村さんの抑留時代の空白の四年は、日本のどん底でもあり、立ち直り始めた時期でもありました。

戦後66年、多くの方々が過酷な状況下に置かれた短くも長い年月、風化してはいけなと思います。また、戦争体験した方々のご意見をお寄せ下さいませ。

すまいるたうんふれあい亭 8月27日(日)
午後1時〜西部ひろば館1階
中村実さんも演奏でいらっしやいます。